



かけはし

~学校評価 臨時号~

令和7年2月発行

津幡町立井上小学校

12月の保護者アンケートのご協力、ありがとうございました。保護者の皆様同様、子供や職員もアンケートをとり、それらをもとにより良い学校づくりに役立てたいと考えております。また、1月下旬に行われた「学校評議員会」で話し合われたこともあわせてお伝えします。今後の取組を進めるにあたっては、ご家庭のご協力ををお願いしなければならないものもあります。今後とも、本校の教育活動をご理解いただき、一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

校訓

至誠 勤労 規律

学校教育目標

自立する子・「合い」ある子の育成

目指す児童像

◆自分で学ぶ子 ◆他と関わる子 ◆健康である子



今年度の重点目標（学校評議員会でも話し合われました）

I. 学力向上と授業力向上を目指して

《育む力》

- ①主体的に自ら進んで考えようとする態度を養う。
- ②友達と共に高め合う中で、知識・理解力、思考・判断・表現力を育む。
- ③子供同士の温かい関わり合いの中で自分の考えや思いを正しく伝える表現力を育成する。
- ④1人1台端末（chromebook）を含め、色々な手段で調査・表現しようとする力を育む。



《結果と分析》（「育む力」の番号に対応）

- ①子供の「～したい」という思いを軸にした課題設定を工夫したり、子供に委ねる場面を増やしたりすることで、子供たち自身がよく考え判断し、動き出す姿が特に見られるようになった。
- ②1人1台端末を効果的に活用することで「個別最適な学び」や「協働的な学び」の実現に近づけている。ただ何をし、どう表現すればよいのか迷い、立ち止まってしまう子供もいる。
- ③学びの基本となる「井上っ子スタディールール」と「アウトプット」を重点化するということを教師だけでなく児童も意識している。
- ④1人1台端末の活用により、子供たちの思考の状況が把握でき、個別支援や全体で共有することができておらず、個々の求めに沿った調査・表現が遂行されている。

《今後の取組》（「結果と分析」の番号に対応）

- ①子供たちの学習のスタート（単元を貫く課題や本時の課題）を明確にし、学習の土台（既習や学び方）をできるだけそろえたうえで、学習を始めたり進めたりしていく必要がある。
- ②「個別最適な学び」や「協働的な学び」を通して、一人一人の子供がねらいに迫れているかを確かめ、ねらいに迫る焦点化した発問を個々、または全体に投げかけ、思考力を高めていく。
- ③教師は一層「合い」ある聞き方、話し方ができている児童に注目し、折に触れて讃めたり、認めたりすることを意識する必要がある。そして、表現することを苦手としている子供にも寄り添いその子供なりの表現の仕方を認め関わっていくことで自立心を培っていく。
- ④1人1台端末（chromebook）の効果的な活用により、今後も子供一人一人の「見取り」を大切にし、困り感等を全体に広めることで考え合うと共に思考を高めていく。

II. 人間性の向上と社会性の育成を目指して

《育む力》

- ①きまりやマナーを守ることの意義やよさについて気付くとともに、「考え・行動する力」を培う。
- ②いじめの未然防止を念頭に、子供同士のよりよい人間関係作りをめざし、自他を大切にする態度を養う。

《結果と分析》（「育む力」の番号に対応）

- ①教師は、決まりやマナーについて指導・支援を行っており、子供の「考え・行動する力」も全体的に向上していると感じているが、子供や保護者には、まだ改善していると捉えられていない。
- ②いじめを未然に防止する学級経営を意識しながら、友達への思いやりを重点においた取組ができた。



《今後の取組》（「結果と分析」の番号に対応）

- ①当たり前のことを当たり前にできていることの素晴らしさを教師は直接子供に伝え、保護者には井上小学校の子供がどれだけ素晴らしいのかを便りやホームページで積極的に知らせていく。
- ②今後も現在の取組を継続するとともに、時には友達に対して嫌になったり、怒りたくなったりする気持ちをもつことは当たり前にあることだと認識させ、それを理解させたうえでよりよい人間関係作りを支援していく。



III. 健康・安全教育の充実、家庭地域との連携を目指して

《育む力》

- ①健康に留意し、自他の安全を守ろうとする態度を養う。
- ②たよりやホームページ等、家庭への情報提供をより充実させることにより会話のきっかけをつくり、学校と保護者の連携を深める。



《結果と分析》（「育む力」の番号に対応）

- ①今年度は昨年度以上に「睡眠」について重点的に取り組み、成果を上げた。また、定期的に行なった「健康5チェック」により「自分の健康は自分で守る」を一層意識づけすることができた。
- ②ホームページの更新回数は昨年度の同時期より更新頻度が多くなってはいるものの、保護者・職員アンケート共に十分に満足できる結果とはいかなかった。



《今後の取組》（「結果と分析」の番号に対応）

- ①学校で呼び掛けられたことを忠実に実践するだけでなく、時期に合わせた服装・マスクの装着等「自ら進んで」自分の健康は自分で守っていく判断力や態度を培っていく。
- ②電子媒体だけでなく、紙媒体を求める声にも耳を傾け、情報提供を積極的に行う。

児童アンケートの結果 A:あてはまる B:どちらかと言えばあてはまる
C:どちらかと言えばあてはまらない D:あてはまらない

質問内容	A	B	C	D
①学校に行くのが楽しいです。	61	28	6	5
②勉強の内容が分かります。	62	34	3	1
③授業では、友達に頼ることなくまずは、自分で考えています。	54	36	8	2
④授業で自分の考えを話す時、「わけ」も一緒に話しています。	31	41	19	9
⑤相手を大切に思い聞こえる声で話したり最後まで聞いたりしています。	59	34	6	1
⑥クロムブックを使って考えを表したり友達と話し合ったりしています。	71	22	6	1
⑦授業では、周りの人と話す中でお互い、高めあっています。	64	27	7	2
⑧外国語の授業では英語の表現をくり返し練習するなど意欲的に取り組んでいます	74	20	4	2
⑨毎日、家で勉強をしています。(10分間×学年以上)	54	28	9	9
⑩相手のことを思いやる言葉づかいや行動をしています。	60	32	5	3
⑪進んで、きまりやマナーを守ろうとしています	70	26	3	1
⑫自分からさきにあいさつをしています。	57	35	5	3
⑬生活目標を達成するために、自分の行動をしっかりふり返っています	60	29	9	2
⑭自分や友達の健康を考えて行動しています。(手洗い・せきエチケット等)	82	16	1	1
⑮係や委員会では、学級や学校のために進んで活動しています。	76	21	2	1
⑯掃除のときは、無言ですみすみまで掃除をしています。	65	26	5	4
⑰避難訓練を真剣に行っています。	94	5	0	1

(%)

保護者アンケートの結果

質問内容	A	B	C	D
①子どもは、元気に学校に行っている。	72	25	3	0
②子どもは、学習内容を理解している。	33	57	8	2
③子どもは、毎日、家庭学習に取り組んでいる。(10分間×学年以上)	33	43	19	5
④子どもは、自分からあいさつをしている。	43	42	12	3
⑤子どもは、相手のことを思いやる言葉づかいや行動をしている。	28	60	11	1
⑥子どもは、自分や周りの人の健康を考えて行動している。	30	56	12	2
⑦便りやホームページ、学校メールを通して、学校の取組等がわかる。	36	57	7	0
⑧子どもは、家で学校の話をしている。	47	40	11	2
⑨子どもは、家族と社会のルールやマナーについて話し合っている。	43	51	6	0

(%)

学校評議員会より

○学力向上と授業力向上について

- ・小学校では、基本担任がすべての教科を担当しているのか。(学校評議員より)
- 小学校でも、教科担任制の流れがある。本校でも理科・音楽・外国語・家庭を既に教科担任制で行っており、昨年度は当該学年の中で、国語担当、算数担当として1組担任と2組担任が授業を担当したこともあった。
- ・教員にとっても、得意な教科や専門性が出てよいのではないか。(学校評議員より)
- その通りで、教員の働き方改革にもつながっている。
- ・外国語は何年生から始まっているのか。ある程度外国語で受け応えできるのか。(学校評議員より)
- 外国語活動として3年生から始まり、5年生からは外国語科として学習する。子供それぞれに違いはあるものの、簡単な会話なら大体の児童はできる。

○人間性の向上と社会性の育成について

- ・自分で考えて行動する力は、社会人になっても大切な力である。小学校で取り組んでいることが、大人になってからの力につながると考えるか。(学校評議員より)
- 小学校での学びを生かしていってほしいと願い、取り組んでいる。文科省も、「今後、どんな世の中になるのか」「そのためにはどのような力が必要になるのか」を協議し、施策を考えている。これからは、どんな状況でもたくましく、しなやかに世の中を渡っていかねばならず、日常的に「自分で考える力」を育む教育を実践している。
- ・世間では、誹謗中傷の話題に事欠かない。道徳観は子供のうちに身に付いていないのだろうか。(学校評議員より)
- 道徳の授業だけでなく、学校教育全体で、ルールを守ることや人権意識について道徳的教育を行っている。誰もがSNSと触れ合う時代であることから、今後ますます情報との接し方が大切になってくる。道徳教育は小学校だけで実践されるのではなく、中学校や10年後、20年後も視野に入れて学びを展開している。

○家庭・地域への情報提供について

- ・家庭教育が大切だと考えている。親が子供の変化に気づいてやる等、しっかり見る必要がある。そのためにも学校の様子がもう少しわかればよい。(学校評議員より)
- ・学校でのきまりやマナーの指導が、家庭に十分伝わっていないのではないか。保護者も学校と一緒に子供に道徳観を教える必要があるのではないか。(学校評議員より)
- 学校、保護者、地域の足並みが揃えば、子供のよりよい成長が期待できる。学校からの情報発信に課題があると考えている。ホームページでは、保護者、地域に対して子供の様子を伝えようとできるだけ更新するようしているが、今のところ十分とは言えないので、些細な事柄・様子だけでもいいので情報発信に努めたい。



保護者アンケートでは、貴重なご意見等をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。いただいたご意見等については、すでに反映もしくは対応させていただいたものもありますが、今後の教育活動に生かしてまいりたいと思います。ありがとうございました。

